南山短期大学人間関係研究センター事業報告
（1988年度）

社会人研修

1. 社会人研修概要 …… 167

2. 人間関係基礎研修講座 …… 168

3. 人間関係専門研修講座 …… 171

4. 人間関係特定研修講座 …… 177

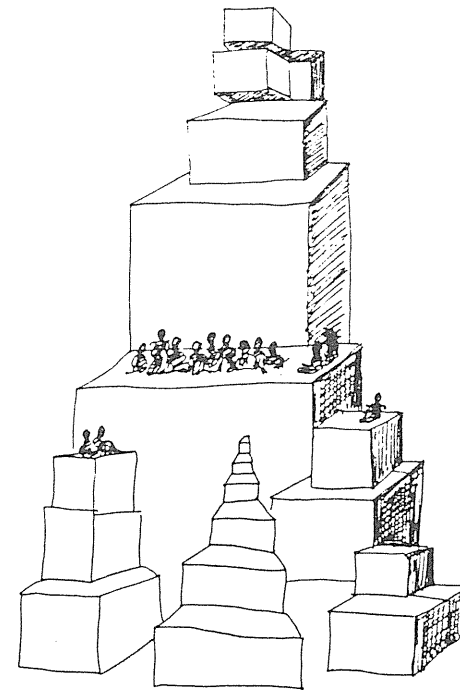
5. コンサルテーション …… 180

6. 社会人研修参加者統計 …… 181

7. 1989年度人間関係研究センター事業予定 …… 183

南山短期大学人間関係研究センター規定 …… 187

■ 社会人研修／概要



〝ねむりこけたままほうられている人間が多すぎる〟
—サン・テグジュペリ

センターの重要な活動である社会人のための公開講座は、昭和52年のセンターの発足時から毎年定期的に開講されている基礎研修講座を中心に、各種の専門研修講座や特定研修講座を開催している。これらの講座は南山短期大学が地域社会に対してユニークな学習の場を提供する機能と同時に、センター研究員に対して教育訓練に関する多様な臨床研究の場を提供する機能を果している。

基礎研修講座は昨年春秋３回開催され、既に23回を重ねている。基本的なプログラムは週１回約３時間（午後６時15分〜９時）の研修を８週間続けて１コースとし、体験学習による自己理解や他者理解、コミュニケーション・プロセス、グループ・プロセスの基礎的な学習を目指している。受講者にとっては、利害関係にとらわれることなく、さまざまな人々と接触を持つことも魅力の一つであり、そこから新しい友人関係や仲間意識が生まれ、自主研修グループに育っていく場合もある。

専門研修としては、〝自己理解を深める〟研修と〝グループ・プロセスの理解を深める〟研修とが基礎研修に続く研修として開講されている。今までは集中的な体験過程を重視するため、１回１泊２日の宿泊研修を２回続けて１コースとして行っていたが、昨年から当センターでは初めて、グループ理解の継続研修としてＴグループを中心とした人間関係トレーニングも試みられている。

特定の専門職にある人々のための特定研修講座として1984年度から「教師のためのセミナー」が開講されており、また現在休講になっている〝カウンセラーのための講座〟も再開を目指して準備中である。また、本年度は複数の研修を同一期間に同一場所で行い、講師や参加者の人間的交流の促進と「人間性解放の風土」を創造するための試みとして、「浦コミュニティ」が開催された。

一方、コンサルテーション活動は地域社会の個人や組織体に対してセンターが提供できる専門的機能であり、1984年度には「名古屋いのちの電話準備委員会」に対して約100名の電話相談ボランティアの「人間関係基礎訓練」の訓練計画の立案・実施の援助を行った。その後、この「名古屋いのちの電話」は1985年７月から相談業務に入り、センターは毎年「人間関係基礎訓練」「継続研修」の訓練計画と実施の援助をしている。

■ 社会人研修／人間関係基礎研修講座

自分自身のことをもっとよく知りたい、自分の行っているコミュニケーションのあり方を点検したい、グループのメンバーとしての自分の能力をみがきたいなど人間関係の学習の主要テーマを、特別に開発された実習や個人やグループで実施しながら、体験的に学習していく。

この研修は、春・秋各一回毎週一回ウィークデイの夜間（6：15～9：00）を用いて、8週間で一つのコースになるように計画されている。本年度は、例年の夜間のコースのほかに月曜日の午前に同一のプログラムで基礎研修講座が開講された。

〔参加資格〕 20才以上の健康な方（男女・学歴は問いません）

〔参加定員〕 40名

この講座は開講当初は「入門講座」と称していたが、第9回から「基礎研修」と改められ、これまで通算23回、参加者753名を数えている。

第21回人間関係基礎研修講座の報告

開講期間：1988年5月9日～7月4日　毎週月曜日午前8回

ねらいは前回までの基礎研修講座と同じである。

「今、ここのお互いの関係のなかで

- 自分がどのような動きをしているか
- 他者がどのように動いているか
- 相互にどのように影響しあっているか
- どんな行動パターンがあるか
- じぶん、他人がどのような価値観をもっているか
- グループのなかにどのようなことが起こっているのか

などに気づき

自分、他者、グループに適切な行動をとる。」

人間関係研究センターにおいて基礎研修講座がはじめられてから早くも10年が経過しようとしている。この間に人間関係科の既婚卒業生をはじめ夜間の研修参加が不可能な主婦を中心に午前、または午後に是非講座を開講してほしいという要望が何回となく寄せられた。これまで南山短期大学の教室事情がかなり厳しい事もあってこれらの要望に応えることができなかったが、1987年度よりピオ館の使用が可能となりこの事情が幾分緩和されたので試みとして第21回基礎研修講座を月曜日午前に開講した。

当初、受講者は主婦が中心と予想されたが、23名の受講者中5名は男性であった。男性受講者の

受講理由をみると、生涯学習の一貫として、年齢に関係なく再就職の可能性を探るため、また事業所の勤務時間内研修などがあり、予想を越えた反応であった。これらの反応は基礎研修の意義の新しい可能性として考えることができると思う。

講座のねらいとプログラムの展開はほぼ前回までのものと同じであったが、〝セルフ・バッグ〟とそれを使用しての〝わかちあい〟をした最終回で、じっくり討論するセッションを持ちたいという要望が出たため、希望者による質疑応答を中心とした9回目の講座が付録として加えられた。この種の講座で実習を中心としたプログラムの場合、時間的な制約のため受講者とスタッフの間で十分な質疑応答に時間が取れないことから、このような「追加の」セッションはおそらく不可決であろう。

（伊藤雅子）

第21回　人間関係講座　全日程表

人間関係研究センター
1988.7.4

	No.1.　5月9日	No.2.　5月16日	No.3.　5月23日	No.4.　5月30日	No.5.　6月6日	No.6.　6月13日	No.7.　6月27日	No.8.　7月4日	
9:30	開　会		導入	導入	小講義 プロセスと コンテスト	小講義 フィードバック	導入	導入 8回を ふりかえる	9:30
	実習　1 「お互い知り合うために」 ねらいの説明 10:15	実習　4 「ブロックモデル」 グループの 課題達成	実習　5 9:45「聴く」 実習　6 「たずね、こたえ観察する」	実習　7 「ノンバーバルコミュニケーション」 休　憩	おもいやりのスキット 実習　9 「PO—PO　(1)」 10:50	実習　10 「的あて」 10:35 休　憩	実習　12 コンセンサスによる集団決定 「若い女性と水夫」 1. 個人決定 2. 集団決定	実習　13 「Self Bag」 10:45 ふりかえり(個人) 10:55	10:00
10:30	実習　2 「講座への期待の共有化」			実習　8 「無言の集団作業」	休　憩	実習　11 「フィードバックサークル」		休　憩 11:10	10:30
11:00	休　憩 11:15	ふりかえり			「PO—PO　(2)」		休　憩 3. 結果の公表 4. ふりかえり	全体で話し合い	11:00
11:30	実習　3 「学習スタイルのインベントリー」 小講義 学習方法について (EIAH)	休　憩 全体で分ち合い	他人と話しあいをするときの自分の検討表記入・集計 休　憩 11:40 ま　と　め	11:45 まとめとふりかえり	11:50 ま　と　め	まとめ 「四つの窓」		閉　会	11:30
12:00									12:00

■ 社会人研修／人間関係専門研修講座（継続研修）

自己啓発ワークショップ「浦コミュニティ」

――もっと自由な発想、もっとしなやかな生き方を求めて――

「浦コミュニティ」は、個々のワークショップを単独に実施するのでなくて、複数のワークショップを同時に開催することによって、講師や参加者の人間的交流の促進と「人間性解放の風土」そのものを一つのコミュニティとして体験する試みとして企画されました。

開催場所の選定は重要な要素でしたが、伊那の城下町高遠からさらに山奥に入り、南アルプス仙丈岳を眼前に納める浦にあるメリット山荘が利用できたことは幸いでした。公共交通機関が不便なため、ロゴスセンターのマイクロバスをチャーターして現地入りしました。

メリット先生によってセンスアップされた古い農家の黒光りした大黒柱と暖かい火の燃える囲炉裏を備えた山荘が私たちを迎えてくれました。俗塵を離れた大自然と部外者のいない安心感とが参加者のこころを解き放ち、スタッフのホスピタリティあふれる手作り料理を楽しみながらの学習は、コミュニティとしてのワークショップの味わい深いものでした。

ワークショップは中堀先生の「自分らしい生き方をさぐる（ＴＡセミナー）」と竹内先生の「からだをひらく」が開催されました。河津先生の「生き生きした授業をつくる」が事前の宣伝不足で参加希望者が人数に満たずに開催できなかったのは残念でした。それぞれのワークショップが定員12名と限定されているため親密なくつろぎ感の中で一人一人に光の当たる探求的なワークが実現されました。セッションはお互いに独立して行われましたが、食事時間や自由時間には囲炉裏を囲んで談論風発し、散策や藪をかき分けての〝たらの芽〟採りなどが共どもに行われました。

参加者のアンケート

- 交流分析→自己分析→自分の今の状態をより素直に反省する方法として使っていけたらよいと思っています。
- 知っていることなんだけど、実行しにくかったこと、少しづつ実行しつつあったことの再認識をしました。
- 生きる力が取り戻せたような気がします。
- 「こんなはずない！」と思っていたが「こんなはずあるもんだ」というのをつくづく実感した。
- 頭であれこれ考えるのではなく“いま、ここでからだがどう感じているのかということに気づくことの大切さを実感しました。
- 日頃の人との関わりで気になっていたこと（協調性、人つきあいの良さなど）がはっきりしてきた。
- 人と向き合うとは、人と人との関係とはどういうことなのか、が少しづつ感じ取れました。
- 他人を受け入れることに非常なためらいがあることを改めて感じた、
- 自分が本当に他と共に生きていきたいと思っているのか自信がなくなった。
- １日目―自分の身体が硬いといつも感じていたが、リラックスできる一つの方法を知った。
  ２日目―発声がかなり身体と関係があることを体験的にわかった。

3日目―出会いのレッスンで、日常における自分自身の投影を見て、今後の課題が明瞭になった。

- 自然に恵まれ、この地を訪れ、地球の営みの力強さを実感しました。うぐいすの声は忘れられない。
- 大自然の中でしかも日常性から離れてやれたことは大変よかった。このような環境で多少の不便はしかたないというより、むしろよかったのではないだろうか。
- メリット先生の明るさ、さわやかさで大変気持ちよく充実したワークショップを終えることができてうれしく思います。お食事やその他のお世話をしてくださったスタッフの皆さんありがとうございました。

＜浦コミュニティ　日程表＞

1988.5.2〜5

	5月2日（月）	5月3日（火）	5月4日（水）	5月5日（木）
8:00				
9:00		朝　食	朝　食	朝　食
12:00		セッション	セッション	セッション
1:00		昼　食	昼　食	昼　食
3:00		自　由	自　由	閉　会 2：00
5:00	開　会	セッション	セッション	
6:00	夕　食	夕　食	夕　食	
7:30	セッション	セッション	セッション	
9:00				

継続研修（A）／第２回セルフサイエンスセミナー

本セミナーは1988年よりスタートし、毎回多くの方から参加の希望をいただいております。「セルフサイエンス」は、マサチューセッツ大学の Weinstein 教授が提唱するトランペットセオリーに基づいて、研修が行われております。

本セミナーの目的としては、

まず第１に、自己理解能力を高めることに焦点を当て、その際にあたかも自然科学者として自分自身を見つめること。それは、客観的であること、即ち非判断的（non-judgemental）に自分自身を観察するようにし、自分の反応に対して興味を持つようになること。

第２に、日常の対人場面における自分の不協和な反応パターンを見つけ出し、それを観察・記録すること。

そして、その自分の嫌な対人行動のパターンに正面から取り組み、そのパターンから抜け出し、新しい自己の創造的な生活を作り出すための実験的な学習を展開していきました。

参加者は20名でしたが、参加者の皆さんは思わぬ自分の一面に出合うことへの喜びと苦しみを体験しながらも最後まで頑張られました。

全日程は別表に示したとおりです。

前半は、トランペットセオリーやＴ．Ａ．の自我状態などの自己理解を深めるための概念の提示とともに、毎回いくつかの実習を行い、自分自身の行動パターンを探っていきました。

後半は、３名から構成されるアシストグループを作り、様々な実習を行いながら参加者は自分のパターンの変革のためにワークを続けていきました。

参加者の感想から：

○自分を客観的に見つめるのは、難しいことでした。

○できるだけ感情に左右されないように見つめていくことは、決していたずらに自分を責めたり、追い込んだりすることじゃないってことに気づきました。

○クラッシャーに出会い、それに伴う自分の不快な行動パターンに様々な試みを加え、パターンを変えていくことって、自分のために真面目にひたむきに生きていくことかなあと考えています。

○今回改めて自分のパターンに取り組んでみて、なかなか重くてたいへんなことなのだけれど、充実感があるというか、やっぱり人間関係科に帰ってきて良かったなとしみじみ思っているところです。

○この講座に出てみて、他の皆さんの真剣に取り組んでいる姿を知ることができて、これも刺激になってうれしかったことです。

○今までの人生で私がいわれもなく毛嫌いしてきたもの、逃げながら自分に言い訳けしてきたものの中に私を知っていく鍵があるような気がします。たった一度の人生ですから、私の価値観をこれから築いてそれに従って生きていきたいと思います。

○このコースの途中で、気になってきたパターンをセオリーにのせてみました。思いがけない私の考えが出てきて驚き、その人との間では、私が漠然と不安として受け取っていたことの正体

みたいなものが見えてきたように思いました。

○このコースに参加して、私なりに自分をふりかえることができたし、自分をあるいは他人を受け入れことの大切さを再認識することができました。

○一方的に教えることをせず、いろんな実習を取り入れてくださったので、やりやすかったです。

○グルーピングして、お互いにフィードバックしあえたことで、他の人から励まされたし、気づかない視点からの助言がもらえました。

コースの流れ

Session	日　程	セッションの話題	ミニモデル	トランペットのステップ
1	9/20	コースの導入	特になし	Confrontation and Inventory
2	9/27	トランペット理論の紹介	トランペット	〃
3	10/4	T. A. の導入	T. A.	〃
4	10/11	The Parent Ego State	T. A.	〃
5	10/18	The Child Ego State	T. A.	〃
6	10/25	The Adult Ego State	T. A.	パターンの明確化
7	11/15	アシスト・グループ作り	R. C.	〃
8	11/22	パターンの明確化		〃
9	11/29	パターンの動機づけ		パターンの機能
10	12/6	パターンの動機づけ		パターンの結果
11	12/13	試みと評価	Contracts	試みと評価
12	12/20	選択と行動計画		選　　択

継続研修（B）／第2回人間関係トレーニングの報告

当センターでは、社会人を対象にした、Tグループを中心にした人間関係トレーニングを、昨年度初めて、東海地区で公開実施したが、今年度もひきつづき実施した。その概要を報告する。

Ⅰ　参加者　11名　　名古屋以外では、北海道、静岡、鹿児島などから。

日　　時　1988年8月20日（土）～ 25日（木）　5泊6日

場　　所　名古屋聖霊短期大学セミナーハウス（愛知県瀬戸市）

スタッフ　5名　　星野　欣生　　山口　真人　（トレーナー）

浜本　孝子　　堀場紀久子　（オブザーバー）

高嶋由紀子　　（事務局）

Ⅱ　トレーニングのねらい

今ここでのかかわりの中で

- 自分や他者のありように気づく
- 応答することを通してお互いの影響関係に気づく
- より深い人間のかかわりを実現するよう試みる

そのために、Tグループ（トレーニング・グループ）を中心にして、すすめられた。

Ⅲ　スケジュールの特色

(1)　昨年度は、参加者の便宜などを考えて、週末を中心に3泊4日で実施したが、学習の深まりなどを考えると、時間不足を否めず、5泊6日とした。

(2)　全体は、Tグループ13、全体会7、夜のつどい、コミュニティアワーで構成されている。全体会の一つとして、創作表現をとりいれ、瀬戸の町にでかけ、工房で陶器づくり（「私の器」）をしたのは、好評でもあり、効果的でもあった。

(3)　Tグループのふりかえりに、5時間近い時間をとり、ここでの体験の一般化をはかった。

Ⅳ　フォローのこと

1988年12月11日（日）南山短大で、トレーニングのあとのフォローアップのためのミーティングを開催した。参加者9人、「Tグループの体験と生活」「Tグループとは」というテーマで、スタッフを交え、それぞれの体験を中心に話し合い、現場への適用を考えた。

Ⅴ　参加者の感想（学んだこと）　（アンケートから一部紹介する）

- ありのままの自分に気づく。
- 自分を認めること。
- 人をわかろうとすることの大切さ。
- 人の暖かさ、うけいれてもらえる安心感。
- 真実が人を動かすこと。
- 人は人の行動を見て変わる。
- 共に生きることの喜び。
- 他人のささえ
- 自分も価値のある人間なのだということ。
- 自分を変えていくのは、結局自分なんだ。でも援助をうけたり、していくのだ。
- 一人一人の人間には、それぞれの〝気づく時〟があること。
- 自分に正直になれる自分がいるんだということ。
- どこの集団にいっても、必ず自分を理解してくださる人がいる。
- 〝人間の心の深さ、大きさ〟〝人と人のかかわりあうことの大切さ〟

1988年度　人間関係トレーニング全日程表

人間関係研究センター
瀬戸　1988.8.20〜25

	第1日　8月20日(土)	第2日　8月21日(日)	第3日　8月22日(月)	第4日　8月23日(火)	第5日　8月24日(水)	第6日　8月25日(木)
8:00		朝　食	朝　食	朝　食	朝　食	朝　食
9:00		T　(2)	T　(6)	T　(9)	全体会 (5) 「無言の探索」	全体会 (6) 「旗づくり」 (いまそしてこれから)
10:20		ふりかえり用紙記入	ふりかえり用紙記入	ふりかえり用紙記入		
10:30		休　憩	休　憩	休　憩	休　憩	
11:00		T　(3)	T　(7)	T　(10)	T　(12)	
12:20		ふりかえり用紙記入	ふりかえり用紙記入	ふりかえり用紙記入	ふりかえり用紙記入	昼　食
12:30		昼　食	昼　食	昼　食	昼　食	解　散
13:30		全体会 (2) 実習　「聴く・観る」	自　由	全体会 (4) 「私の器」 (創作表現)	T　(13)	
14:00	受　付					
15:00	開　会 全体会 (1) 研修の入り口で 〝私のねらい〟の共有化	15:30	全体会 (3) 「無言の集団作業」		15:10 ふりかえり用紙記入	
		16:00　休　憩			16:00　(写真)	
		T　(4)			Tグループの ふりかえり(1)	
17:30		17:30		自　由		
		17:40 ふりかえり用紙記入				
18:00	夕　食	夕　食	18:40	夕　食	夕　食	
			夕　食 20:00		Tグループの ふりかえり(2)	
19:30	T　(1)	T　(5)	T　(8)	T　(11)	20:30	
					20:45　夜のつどい	
21:00	ふりかえり用紙記入	ふりかえり用紙記入	21:20	ふりかえり用紙記入	コミュニティアワー	
21:10			21:35 ふりかえり用紙記入			
21:15	夜のつどい	夜のつどい	21:50　夜のつどい	夜のつどい		
21:30						

■ 社会人研修／人間関係特定研修講座

第5回　教師のためのセミナー

『生き生きした授業をつくる』

――ヒューマニスティック・エデュケーションへの接近――

このセミナーは現在教職に就いている人々が、学級の中でのひとりひとりの児童・生徒の真実の姿に迫る視点を探り、子供たちが生き生きとした感情や意欲を発達させることができるような授業をつくり出せるように、自己発見と自己成長のための相互啓発の場を提供することを目的としています。

特に次のような方におすすめします。

＊児童・生徒の知識や技能を伸ばすだけでなく、情意も豊かに伸ばす授業づくりに取り組んでいる方、又は取り組みたい方。

＊体験やイメージやファンタジーを使って、教室での学習をもっと楽しく興味深いものにしたいと思っている方。

＊児童・生徒ともっと深いところで対話を持って、心理的成長を援助できるようになりたいと願っている方。

＊教師としての自分の可能性をもっと探ってみたいと思っている方。

1988年は10月8日～1月28日までの土曜日（午後6時～8時30分）に12回実施した。参加者は現職教員4名（女2・男2）。

内容は、自分自身の情動に対する気づきを深めるための実習や話し合いを中心にしたゲジュタルト・アプローチを取りながら、適時読書報告や参加者の教育実践報告などを交え、熱心に進められました。

日　程	内　　容	日　程	内　　容
第1回	ねらいの提示と共有化 自分を語る実習	第7回	自由な話し合い 気づきの実習
第2回	自由な話し合い・読書感想 気づきの実習	第8回	自由な話し合い リフレクターの実習
第3回	自由な話し合い・読書感想 ファンタジーの実習	第9回	自由な話し合い リフレクターの実習
第4回	自由な話し合い 気づきの実習	第10回	自由な話し合い リフレクターの実習
第5回	自由な話し合い 気づきの実習	第11回	自由な話し合い 気づきの実習
第6回	自由な話し合い パーソナル・リスポンスの実習	第12回	自由な話し合い 気づきの実習

第２回　組織内教育セミナー

―体験学習のファシリテーターとしての理論とスキルを磨く―

このセミナーは、1987年度に、〝企業の教育担当者のためのセミナー〟として、スタートしたものである。1987年度は、企業内で教育にかかわっている人たちを中心に、17名（男性11名、女性６名）が参加し、12回実施した。そのプログラムでは、まず、教育担当者としての、自分の学習スタイル、トレーニングスタイル、リーダーシップスタイルの検討、それぞれの教育体験のわかちあいなどから、これまでの自分のありようを考えた。ついで、このセミナーのメインである「教育プログラムの作成と実施」にはいり、そこでは、参加者が相互に体験学習を中心とした教育の実施者、受講者となって、ファシリテーターとしてのスキルを磨いた（教育の実施は全体で２回）。終りのほうでは、ここでの体験をみんなでまとめながら、組織内教育の現状や問題点を考え、教育とは何か、また、自分の教育観を明らかにしようとした。

1988年度は、このセミナーのねらいとして、

組織で、教育に携わる者あるいは関心を持っている者（ファシリテーター）として

1　教育とは何か、教育観、姿勢、役割などを考える。

2　ファシリテーターとして、教育プログラムをつくり、実施するスキルを養う。

3　組織内教育の現状、問題点、将来の方向などを探る。

4　参加者相互のかかわりを深める。（相互理解、チームづくり、情報交換など）

をあげた。

そして、前年度にくらべ、プログラムの内容を大きく変更した。焦点を、体験学習のファシリテーターとしてのスキルトレーニングとし、プログラムのすべてをそれにあてた。その特徴を、具体的に述べると、体験学習を中心とした「教育の計画と実施」を２サイクル実施。参加者は、それぞれの教育の関心領域にものづいて、２―３人のグループをつくり、自分のグループ外の参加者を受講者として、教育を計画、実施した（全体で12回実施）。そして、その都度、全員で、教育を実施した人たちに対して、教育のすすめ方、受講者への介入の仕方、教育の姿勢、考え方などを中心に、フィードバックする時間を持った。１回目は、教材は既存のものを使ったが、２回目は、体験学習の実習や教材を自分たちで、新しく開発した。自分の手でつくることによって、体験学習の意味や受講者への介入、ファシリテーター（教育する者）としてのあり方をより深く体験的に学習することができると考えたからである。ちなみに、ユニークな実習が、いくつか、新しく開発された。参加者の感想を報告したいが、現在、進行中であり出来ないことを付記しておく。

- 参加者数14名（男性７所、女性７名）
- 回数13回（予定より１回増）
- 全スケジュール次頁のとおり

組織内教育セミナー日程表　1988

南山短大　人間関係研究センター

1	1988	・スタッフ紹介
	10／ 8	・歓迎のことば「教育、一つの視点」
		・「セミナーの入口で」
		実習「他己紹介」、このセミナーのねらき、すすめ方の説明
2	10／15	・「体験学習」を体験する
		実習（問題解決）「八ケ岳小学校」
		小講義「「体験学習」
		・「教育の計画・実施の準備」Ⅰ　教育の領域、挨当、日程の決定
3	11／ 5	・「教育の計画・実施の準備」Ⅰ　準備
4	11／26	・「教育の実施」Ⅰ　(1)　グループ間の実習　「的あて」
		教育実施者へのフィードバック
		(2)　グループ内の実習　「組織犯罪殺人事件」
		フィードバック
5	12／ 3	・　(3)　組織の実習　「部課長ゲーム」
		フィードバック
		(4)　個人の気づきの実習　「モリスの13の生き方」
		フィードバック
6	12／10	・　(5)　個人の気づきの実習　「私がしたい20のことがら」
		フィードバック
		(6)　グループ内の実習　「ＮＡＳＡ」
		フィードバック
7	12／17	・　(7)　対人関係の実習　「富士山噴火」
		フィードバック
		・教育の実丈Ⅰのふりかえり
		・このあとのすすめ方について、
		「教育の計画と実施」Ⅱ　教育の領域、担当、日程の決定
		「関係過程としての教育」
8	1988	・小講義「教育する者の姿勢、考え方など」
	1／14	・「教育の計画と実施」Ⅱの準備（新しい実習を開発する）
9	1／21	・「教育の実施」Ⅱ　(1)　対人関係の実習　「コンセンサスより　こう見る、こう見られている」
		教育実施者へのフィードバック
10	1／28	・　(2)　個国の気づきの学習　「My Box」
		フィードバック
11	2／18	・　(3)　組織の学習　「ダイヤを探せ」
		フィードバック
12	2／25	・　(4)　グループ間の学習
		フィードバック
13	3／ 4	・　(5)　グループ間の学習
		フィードバック
		・セミナー全体のふりかえり
		・アンケート

■ コンサルテーション

○「名古屋いのちの電話」電話相談員養成講座の計画と実施

「いのちの電話」は、訓練を受けたボランティアが電話を通して、さまざまな悩みや心の危機に直面しながら身近に相談できる相手がなく孤独の中にいる人たちの、良き相談相手になっていこうとする市民の奉仕活動である。1953年ロンドンで始められ、現在では世界40ケ国、数百都市に設立されている。日本では、1971年に「東京いのちの電話」が開設され、今日まで東京、横浜、京都、大阪など27都市に設立され、「日本いのちの電話連盟」を組織して各地でそれぞれ独自の活動をしている。

「名古屋いのちの電話」は全国で23番目の「いのちの電話」として1985年7月に開局し、現在130名余りのボランティアが年中無休の電話による心理的危機に対する援助活動に参加している。人間関係研究センターは、名古屋いのちの電話訓練委員会からの要請で、相談員養成講座の第一課程である人間関係基礎訓練のプログラムの立案と実施のコンサルテーションを行っている。本年（1986年）7月には「名古屋いのちの電話」より感謝状の贈呈を受けた。

基礎訓練は「自己理解を深める」をねらいとして、1回2時間のセッションを毎週1回、計8回の体験学習プログラムを立案し、1985年度は第2期生（50名）の基礎訓練を1986年1月から3月に実施した。1986年度は第3期生（60名）の基礎訓練を1986年10月から12月に、1988年度は第4期生（37名）の基礎訓練を1988年4月から7月に実施し、同時に既に相談員として認定を受けた人の中から基礎訓練の担当スタッフを養成するためのプロジェクトを開始した。

ねらい：「自己理解を深める」

- ○ 自分の価値観（考え方や行動の特徴）に気づく。
- ○ 自分のありのままを表現する。
- ○ 相手のありのままを聴く。
- ○ 対人関係（自分との、他人との）のなかにある自分のあり方に気づく。
- ○ 今、ここでの関係の中におこっていることに気づく。

この訓練は、電話相談養成の目的で行われたものであるが、決して相談員となるための技能訓練ではない。社会の中で、人とのかかわりの中で、共に生きようとするときに、誰でも求められることがらの訓練としてプログラムされたものである。

1986～1988年度コンサルテーション及び依頼事業

（順不同）

講　　座　　名	主　　催
電話相談コンサルテーション	名古屋いのちの電話
スクールＯＤコンサルテーション	聖カピタニオ女子高等学校
リーダーとして備えるべきものは何か	東海理化労働組合
情動を大切にした教育	遠州カウンセリング研修会
グループリーダー研修会	名古屋市千種社会教育センター
出会い・ふれあい・結婚	名古屋市瑞穂青年の家
ヘルスカウンセリング指導者養成講座	愛知県教育委員会
人間関係訓練	名古屋市民生局
教師と生徒とのコミュニケーション の中でどこまで訊けるか	愛知県私学協会研究部
人と人とのコミュニケーションについて	東海市教育委員会
カウンセリング講座初級講習会	愛知県看護協会
青少年担当者・指導者養成事業	愛知県総務部
箱庭療法	財団法人関西カウンセリングセンター
箱庭療法研究会	兵庫教育大学生徒指導講座
人間関係トレーニング（Ｔグループ）	遠州カウンセリング研究会
「おとしよりとの人間関係・チームワーク」体験学習	名古屋市民生局
教師と生徒の人間関係	中部地区カトリック中・高等学校教職員教育研修会
リーダーシップについて…理論と実践…	愛知県労働部
習熟度別学習指導について	香川県立小豆島高等学校
望ましいグループリーダー養成講座	名古屋市千種社会教育センター
ＰＦスタディーの理論と実践	宝塚市立教育研究所
人間関係トレーニング …自己理解・他者理解のために…	財団法人関西カウンセリングセンター
非行少年の箱庭	大阪家庭裁判所
生き生きグループ活動	名古屋市昭和社会教育センター
なるほど・ザ・総婚	名古屋市瑞穂青年の家
昭和63年春期アドバンスコース	関西カウンセリングセンター
患者理解を深めるために	浜松市立看護専門学校
箱庭療法ケースセミナー	メンタルヘルス研究所、東京
東海市教育委員会主催ヤングセミナー	東海市立青少年センター
人間関係をよくするために	戸塚協会名古屋支部
婦人教育研究会	名古屋市教育委員会：名古屋市婦人会館
女性が学ぶこと、ライフサイエンス	名古屋市教育委員会：名古屋市婦人会館
カウンセリング講座	愛知県看護協会
学校栄養職員研修会「リーダーシップの機能」	名古屋市教育委員会
箱庭療法夏期研修会	兵庫教育大学生徒指導講座
老人福祉関係職員等研修事業	名古屋市民生局
男と女の交差点	名古屋市瑞穂青年の家
勤労青少年リーダー養成研修会	愛知県労働部労働福祉課
企業経営＝職場でのコミニュケーション	名古屋商工会議所
私学協会教育相談研究会	愛知県私学協会
サークル活動をデザイン	名古屋市瑞穂青年の家
研修・研究の調査	奈良県教育センター
女性講座	春日井市いぶき会

■ 社会人研修／参加者統計

講座名		場所	担当者	期間	時間	曜日	参加者数	性別		居住地		職業											年齢				
								男	女	市内	市外	公務員	団体職員	会社員	自営業	医療関係	教育関係	教会関係	主婦	学生	その他	無答	20～29才	30～39才	40～49才	50才以上	無答
人間関係基礎研修講座	前回まで						677	192	485	442	235	39	38	192	23	63	99	31	82	70	40	0	346	179	104	46	2
	第21回基礎研修	南山短大	伊藤	S63.5/9～7/4	9：30～12：00	月（8回）	24	5	19	15	9	0	0	3	0	0	2	0	16	0	3	0	5	9	8	2	0
	第22回基礎研修	〃	まどか 山口	S63.5/12～7/7	18：15～21：00	木（8回）	24	8	16	17	7	2	0	9	0	2	6	0	1	1	3	0	14	6	2	2	0
	第23回基礎研修	〃	中堀 木村	S63.10/7～12/9	18：15～21：00	金（8回）	28	9	19	17	11	3	0	5	2	2	9	1	3	0	3	0	13	8	5	1	1
	計						753	214	539	491	262	44	38	209	25	67	116	32	102	71	49	0	378	202	119	51	3
人間関係専門研修講座	前回まで						212	51	161	134	78	17	19	50	5	32	32	5	19	22	9	2	87	64	42	16	3
	継続研修A 自己啓発 浦ワークショップ	長野県 長谷村浦	中堀・竹内 山口 メリット	S63.5/2～5/5		宿泊 3泊4日	18	4	14	13	5	0	1	6	0	1	4	0	2	1	3	0	8	5	3	2	0
	継続研修B 人間関係トレーニング （Tグループ）	聖霊短大 セミナーハウス	星野 山口	S63.8/20～8/25		宿泊 5泊6日	11	2	9	2	9	0	0	2	0	0	4	0	1	1	3	0	3	4	3	1	0
	継続研修A セルフサイエンス	南山短大	津村	S63.9/20～12/20	18：30～21：00	火（12回）	21	2	19	10	11	1	1	14	1	1	3	0	0	0	0	0	16	4	1	0	0
	計						262	59	203	159	103	18	21	72	6	34	43	5	22	24	15	2	114	77	49	19	3
人間関係特定研修講座	前回まで						112	33	79	63	49	0	5	14	4	2	61	24	1	0	1	0	21	39	28	23	1
	組織内教育セミナー	南山短大	星野	S63.10/8～H1.2/25	14：00～16：30	土（12回）	13	7	6	8	5	0	1	7	2	0	0	1	0	0	2	0	2	8	3	0	0
	教師のためのセミナー	南山短大	山口	S63.10/8～H1.1/28	18：00～20：30	土（12回）	4	2	2	1	3	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0
	計						129	42	87	72	57	0	6	21	6	2	65	25	1	0	3	0	27	47	31	23	1
総計							1144	315	829	722	422	62	65	302	37	103	224	62	125	95	67	2	519	326	199	93	7

■ 社会人研修／人間関係研究センター1989年度事業予定

南山短期大学人間関係研究センター
The Center for the Study of Human Relations
of Nanzan Junior College

個性ある生き方と人間性豊かな社会をつくり出すために

私たちは一人ひとり豊かな人間性と独自の個性を持ったかけがえのない存在です。ところが現代社会の中で私たちは、役割の中に埋没し、互いに心を閉ざし、かかわり合うことをおそれ、人間をあたかも物の如くに扱い、自分も取るに足らぬ者としか感じられなくなっていないでしょうか。

人間関係の教育は、対話を通して自分の価値観や人生観をみがき、他者への思いやりと感受性を豊かに養い、ひとりひとりが生かされるグループや共同体を形成し、人間疎外の社会を愛と信頼関係のあふれる人間尊重の社会へと変革することと、それらの担い手を育てることに取り組みます。

いまこそ本当に人間関係の教育が必要とされているのです。

一般研修

人間関係講座　―基礎研修―

自分自身のことをもっとよく知りたい、自分の行っているコミュニケーションのあり方を点検したい、グループのメンバーとしての自分の能力をみがきたい、など人間関係の学習の主要テーマを、特別に開発された実習や個人やグループになって行いながら、体験的に学習してゆきます。この研修は、毎週一回ウィークディの夜間（6：30～9：00）を用いて、10週間で一コースになるように計画されています。春・秋各一回開催しております。

第24回　人間関係基礎研修講座
1989年4月25日（火）～7月11日（火）午後6時30分～9時

第25回　人間関係基礎研修講座
1989年5月8日（月）～7月17日（月）午前9時30分～12時

第26回　人間関係基礎研修講座
1989年9月28日（木）～12月14日（木）午後6時30分～9時

〔参加資格〕 20才以上の健康な方（男女・学歴は問いません）
〔参加定員〕 30名
〔参 加 費〕 17,510円（消費税を含む）

継続研修

基礎研修を終了した方や、既に体験学習による研修に参加したことのある方で、さらに学習を深めたい方々のための研修です。ウィークエンドに行われる一泊二日の集中的なプログラムで、二回で終了するように計画されています。また四泊五日の集中的グループ体験による研修及び毎週一回12回程の研修も予定されています。

継続研修（A） ―ＴＡセミナー―

エリック・バーンによって開発された交流分析（ＴＡ）を用いながら、自分自身の自我状態や人生脚本の点検を通して、他者と共に生きる自分のあり方をさぐります。

〔日　　程〕 1989年５月12日（金）～７月21日（金）午後６時30分～９時
〔担 当 者〕 中堀仁四郎
〔参加資格〕 20才以上の健康な方（男女・学歴は問いません）で原則として基礎研修または体験学習を主とした研修に参加された方
〔参加定員〕 15名
〔参 加 費〕 20,600円（消費税を含む）

継続研修（A） ―セルフ・サイエンス―

アメリカ（University of Massachusetts）にて、ウエインシュタイン教授が提唱するトランペット・セオリー（The Trunpet）に基づいて、対人関係の中で自分の行動パターンを明確にするとともに、そのパターンの変革を試みようとします。

〔日　　程〕 1989年９月22日（金）～12月15日（金）午後６時30分～９時
〔担 当 者〕 津村俊充
〔参加資格〕 20才以上の健康な方（男女・学歴は問いません）で原則として基礎研修または体験学習を主とした研修に参加された方
〔参加定員〕 20名
〔参 加 費〕 20,600円（消費税を含む）

継続研修（A） ―からだとことばのセミナー―

人が人と向いあい、近より、ふれ、かかわり、そして応え、ことばを交わすこと、その基盤となる自分のからだに気づき、動き出してみようと試みてみたいと思います。

- ひとにふれ切れない自分にきづく
- 自らのからだのこわばりにきづく
- からだをときほぐす
- 感じるままに動く
- 他者に働きかける
- ことばで働きかけ、そして応える

短い時間でどれだけのことが成り立つかわかりませんが、からだ全体が深くいきいきと動き出す感覚が、湧き出してきたらいいな、と思います。

〔日　　程〕 1989年7月21日（金）～23日（日）（3日間集中）
〔担 当 者〕 竹内敏晴
〔参加定員〕 20名
〔会　　場〕 南山短期大学
〔研 修 費〕 30,900円（消費税を含む）

継続研修（A） ―ゲジュタルト・アウェアネストレーニング―

誰もが自分の中心に〝生きるエネルギー〟を持っています。しかし日常生活の中では表面的な人間関係や役割関係の中に埋もれてしまうことが多く、本当に自分の持っているエネルギーに触れることはむずかしいものです。

セミナーでは、自分の感情や身体や空想など〝いま・ここ〟で自分自身が体験していることへの気づき（アウェアネス）を高め、そこに浮かび上がって来る自分の〝図〟になっている部分とその背景になっている〝地〟の部分との分裂や対立や固着の存在を明確にします。これらの分裂や対立や固着は、自分の中の実存的なエネルギーに触れることによって流動化し、自分自身の主体としての統合性を高め、他者や環境への受動的依存的な生き方を主体的相互的（自立的）な生き方へと変革することを可能にするでしょう。

セミナーでは自分自身を語り、情動を表出し、実験し、できる限り〝いま・ここ〟を〝ありのまま〟に生きることが勧められます。そのためにも〝やりたくないことはやらなくてよい〟ということを原則とします。また、自分の体験は自分にとっての意味を自分が探るためのものであり、解釈や説明は無用です。

〔日　　程〕 1989年9月19日（火）～12月19日（火）午後6時30分～9時
〔担 当 者〕 山口真人
〔参加定員〕 15名
〔研 修 費〕 20,600円（消費税を含む）

継続研修（B） ―人間関係トレーニング（Tグループ）―

「人間関係トレーニング」では、小グループという〝今・ここ〟の場の中に生じるメンバー間のコミュニケーションや影響関係を学習の素材とする学習方法をとります。実際に自分が、他者とどのように関わっているかに気づき、吟味し、新たな可能性を試みることを通して、人間存在に対する理解を深め、人間関係の本質を体験的に学んでゆきます。そこでのひとつひとつの影響関係が有機的につながって、より深い人間関係を生み、次第にグループというまとまりが育っていく過程の学習そのものを学びます。

〔日　　程〕 1989年9月15日（金）～20日（水）5泊6日
〔担 当 者〕 中堀仁四郎・津村俊充・樋田大二郎・まどか庸代
〔参加定員〕 20名
〔参 加 費〕 51,500円（消費税を含む）（滞在費は別途徴収）

特定研修

教師のためのセミナー

「子供の真実の姿を理解していることは、効果的でなお創造性のある授業の実現に半ば成功したようなものだ」と言われますが、現在の教室での状況はいかがでしょうか。子供の真実の姿を理解するどころか、教師として子供たちの見せかけの言動にまどわされたり、色眼鏡で子供たちを見てしまったり、自分の感受性の乏しさに気づかないこともしばしばですし、逆に子供たち自身が自分の真実を見失ってしまっていることすら起こっています。このセミナーでは、学級の中の子供たちのありのままの姿をみる目を養い、ひとり一人の子供の真実に迫る視点を探ります。

このセミナーのプロセスは教職にある人々の相互啓発による自己発展と自己成長の機会になると思います。

〔日　　程〕 1989年7月28日（金）～30日（日）（3日間集中）
〔担 当 者〕 河津雄介（百芳教育研究所）
〔参加資格〕 現在教職についている方または教育に関心の深い方
〔参加定員〕 20名
〔参 加 費〕 30,900円（消費税を含む）

組織内教育セミナー

円高ドル安、社会の高齢化などきびしい社会情勢の中で、企業内教育はいま一つの曲り角にあるといわれますが、いかがでしょうか。このような機会に、日頃企業内の教育にかかわっておられる人たちが集まって勉強会を持ってみたらと思い、次のような企画を立ててみました。気楽に、話し合ったり、実習をしながら、これからの企業内教育のあり方などを共に探りたいと思います。

〔日　　程〕 1989年9月23日（土）～1990年1月27日（土）午後2時～5時
〔担 当 者〕 星野欣生
〔参加資格〕 組織内の教育研修に関心のある方
〔参加定員〕 約20名（組織や企業で教育にかかわっている方）
〔受 講 料〕 41,200円（消費税を含む）

注）1989年度開講予定のプログラムの日程等に関するご質問は南山短期大学人間関係研究センター（Tel. 052－832－6211・6214）までお問い合わせ下さい。

南山短期大学人間関係研究センター規程

第１条　本学に南山短期大学人間関係研究センター（The Center for the Study of Human Relations of Nanzan Junior College）（以下「センター」という。）をおく。

第２条　センターは、キリスト教的人間観に立って広く学際的・行動科学的に人間・人間関係の研究および研修を行うことを目的とする。

第３条　前条の目的を達成するために、次の各号の事を行う。

1　人間・人間関係に関する研究と教育の推進

2　センターと目的を共通にする学外研究機関との協力

3　地域社会における開かれた大学としての諸機能を果たすために研究会・研修会等の開催および個別的相談・指導・援助等

4　研究成果の刊行および文献・資料の収集と一般への公開

5　その他センターの目的達成のために必要と認める事業

第４条　センターに研究員を置き、そのうち１名をセンター長とする。

②　研究員およびセンター長は学長が委嘱する。

第５条　センター長は、センターの事業を掌理し、センターを代表する。

第６条　センターは、必要に応じて顧問、相談員および講師をおくことができる。

第７条　センターは、その目的にそって研修しようとするものを研修生として受け入れ指導・援助を行う。

②　研修生についての規程は、別に定める。

第８条　センターに事務職員をおく。

②　事務職員は、センター長の指示をうけてセンターの事務を担当する。

付　　則

本規程は、昭和52年９月30日より実施する。

南山短期大学人間関係研究センター研究員

（1988年4月～1989年3月）

センター長	星野　欣生				
研　究　員	樋田大二郎	市瀬　英昭	伊藤　雅子	木村　晴子	まどか庸代
	宮本　　桂	中堀仁四郎	中野　　清	大森　正樹	鈴木　貞雄
	竹内　敏晴	津村　俊充	山口　真人		（ＡＢＣ順）
事　務　局	渡辺みどり（前期）		黒田　美樹（後期）		

編　集　後　記

ついに、やっとやっと第６号完成しました。第５号までの経験を生かし、今回はかなり早くから特集のテーマを決め秋頃には発行できる予定でした。しかし、予定はやはり予定でして、またもや年度末ぎりぎりの編集作業になってしまいました。編集者の怠慢の致すところです。お許しください。それと同時に執筆の先生方の大学での教育活動の忙しさから実質的には一年間の授業終了後にしか十分な時間が取れず、この時期の発行にならざるをえないのです。そうした状況にも関わらず、今回の特集のテーマ『対話』で執筆されたどの論文もかなり力作になっており、じっくり味わって戴けたことと思います。

『対話』という難しいテーマに対して、人間論的なアプローチ、「からだ」からのアプローチ、キリスト教的視点からのアプローチ、心理学的なアプローチ、教育現場を通してのアプローチ、また科学と宗教といった観点からのアプローチといった様々な角度からの論文を掲載することができたことを編集者一同喜んでおります。また、本号において初めて欧文で異文化間の問題を初代人間関係研究センター長のメリット先生より投稿して戴けたことも有り難く思っております。

今年度は２回の特別研究会が開催され、どちらも日本的な視点からの人間／関係への話題提供がなされ、多くの参加者の皆さんからの質疑により意義深い研究会になりました。特別研究会のセクションは、それぞれの研究会の逐語録を中心にまとめました。時として、人間関係の研究とか人間関係のトレーニングと言った場合欧米諸国からの受け売り的な感覚で捉えられがちですが、本研究センターでは、日本という風土に根を下ろした研究と実践を試みることを目指して、これからも内外からの研究と実践を重ねていきたいと考えております。

ドイツ留学より帰国して間もない中野清氏にも「人間学」と題した翻訳を投稿して頂き、ドイツの研究領域の広がりと共に、人間に関わる問題を研究する人々にとってはその深さと重みを知ることができたのではないでしょうか。

また、米国（カリフォルニア大学サンタバーバラ校）にてジョージ・ブラウン教授のもとで学ばれてきて以来、本研究センターにおいて現場の先生方を対象にして研修を行っている「教師のためのセミナー」の実践記録もレポートして戴きました。

おかげさまで、この紀要を発行する度に多くの方々よりたくさんの反響があります。人間関係科が15年前に創設され、その５年後に人間関係の研究と実践のために人間関係研究センターが開設され、さらに５年後本研究紀要が発刊されることになりました。５年毎に一つの区切りの年になっているようです。これから先の５年間はどんな道程を歩むことになるのでしょうか。当センターも新しい発展の段階に至るための模索の時期にきているように思われます。小さな大学の中にあって、真なる教育活動を推進するための当センターもこれからさらに大学内外の荒波にもまれていくことになるでしょう。

最後になりましたが、本号を発行するにあたりご協力をいただきました方々に深くお礼を申し上げます。

合　掌

（津村　俊充　記）

人間関係 創刊号 1984

目　次

特別講演　コンティンジェンシー理論について－現状と課題……野中郁次郎・2

特　集　「Tグループ」

JICEラボラトリー・トレーニングの変遷（その1）……中堀仁四郎・11

高等教育におけるTグループの実践……星野欣生・山口真人・36

人間関係科Tグループ実践をめぐって……座　談　会・77

Tグループによる学習過程理解のための方法論的研究1）
－学生の形容詞語表現による雰囲気理解への多次元的アプローチ－……津村　俊充・90

Tグループに於ける女性
－規範と性役割に由来する問題点－……KANTER・倉澤俊三・99

事業報告　（1977年～1983年）

Ⅰ　研　究　会

1．「コンティンジェンシー理論について」……野中郁次郎（一橋大学）・108
－現状と課題－

2．「大学教育におけるTグループ適用の試み」……星野　欣生（南山短大）
－教育の変革を求めて－　山口　真人（南山短大）・109

3．「これからのカウンセリングのあり方」……小林　純一（上智大学）・111

4．「わたしの歩んできた道」……福山　徳蔵（上智大学）・113

5．「ヒューマニスティック・エデュケーション
の動向と自己成長への身体的アプローチ」……グラバア俊子（南山短大）・116

6．「ワーハーと教育」－我と汝を中心にして－……真行寺　功（金沢大学）・118

7．「With-nessということ」……星野　欣生（南山短大）・120
－教師・学生関係について－

8．「関係の神学」……奥村　一郎（聖母女学院短大）・122

9．「教育を考えなおす」……伊東　博（横浜国立大学）・126

10．「からだ・ことば」……竹内敏晴（高坂教育大学）・128

Ⅱ　社会人研修

1．人間関係基礎研修講座……・132

2．人間関係専門研修講座……・134

3．人間関係特定研修講座……・137

4．社会人研修参加者統計……・140

5．1984年度社会人研修予定……・141

Ⅲ　南山短期大学人間関係研究センター規程……・142

Ⅳ　南山短期大学人間関係研究センター研究員……・143

人間関係 第2・3号 合併号 1985

目　次

特別研究会　人間関係の教育……河合　隼雄・2

特　集　「人間教育における体験学習」

Ⅰ　高等教育における体験学習

1．南山短期大学人間関係科の教育の概観……星野　欣生・39
――10年の歴史と展望――

2．人間関係科における教育の試み……R.A.メリット・47
――見直された体験学習――

3．"人間関係訓練による"体験学習……柳原　光・64
――トレーニングから学習へ――

Ⅱ　南山短期大学人間関係科の10年

1．教育の実践

・一年次の授業の流れ……・83

1）キリスト教概論Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ……宮本　桂・84

2）人間関係概論A，B……柳原　光・89

3）人間関係基礎論Ⅰ（哲学的基礎・同演習）……倉澤　俊三・95

4）人間関係基礎論Ⅱ（心理学的基礎・同演習）……グラバア俊子・100

5）人間関係基礎論Ⅲ（社会学的基礎・同演習）……山口　真人・106

6）人間関係研究法（その1）……星野　欣生・114

7）人間関係研究法（その2）……星野　欣生・117
――フィールド・ワーク――

・二年次の授業の流れ……・123

8）人間関係各論Ⅰ（家族に関する領域）……伊藤　雅子・124

9）人間関係各論Ⅱ（組織・集団に関する領域）……山口　真人・132

10）人間関係各論Ⅲ（文化に関する領域）……森田　茂彦・136

11）人間関係各論Ⅳ（教育に関する領域）……R.A.メリット・倉澤俊三・141

12）人間関係各論Ⅴ（援助法に関する領域）……グラバア俊子・145

13）人間関係綜合実習（合宿）……山口　真人・150

14）人間関係実験演習Ⅲ（卒業研究）……星野　欣生・156

2．学生の学びとその軌跡

1）在学2年間と卒業後5年間の個人の成長記録から……倉澤　俊三・162

2）卒業生の追跡調査から……津村　俊充・179

3．人間関係科に新しくかかわる教員として

1）教師と学生のかかわりをめぐって……木村　晴子・205
――心理臨床分野の教員として――

2）「体験学習」を哲学する……中野　潤・208
――体験と知とコトバ、知の復権を求めて――

投　稿　JICEラボラトリー・トレーニングの変遷（その2）……中堀仁四郎・217

事業報告　（1984年）

Ⅰ　研　究　会

1．「もう一つの主婦像――商店のおかみさんたち」……天野　正子（千葉大学）・269

2．人間関係科における体験学習……グラバア俊子（南山短大）・271
――一教員の十二年間――

3．体験学習と理論学習をめぐって……中野　潤（南山短大）・273
――背伸を読む――

Ⅱ　社会人研修

1．人間関係基礎研修講座……・277

2．人間関係専門研修講座……・279

3．人間関係特定研修講座……・281

4．コンサルテーション……・283

5．社会人研修参加者統計……・285

6．1985年度社会人研修予定……・286

Ⅲ　南山短期大学人間関係研究センター規程……・288

人間関係 第4号 1986

目　次

特別研究会　人間関係と自己表現……竹内　敏晴…2

特　集　「自己表現」

Ⅰ　自己表現ワークショップからの報告

自己表現ワークショップの概要……山口　真人…33

ワークショップ1　「私の仮面作り」……木村　晴子…36

〃　2　「自由に踊ろう，感ずるままに！」……会沢　俊三…46

〃　3　「クリエイティブ・ペインティング」……山口　真人…53

〃　4　「オイリュトミー」……グラバア　俊子…60

〃　5　「情熱とスペイン舞踊－感情と表現－」…まどか　庸代…71

〃　6　「絵本つくり－誕生－」……文珠紀久野…86

Ⅱ　自己表現をめぐっての考察

1．チームつくりと自己表現……星野　欣生…93

2．神経体験にみる自己表現……大森　正樹…98

3．現代文化と自己表現……植田大二郎…102

ミニレクチャー

体験学習……星野　欣生…109

プロセスとは何か……津村　俊充…116

コミュニケーション・プロセス……山口　真人…120

邦訳ミニレクチャー

センシティビティ・トレーニングとは何か…Charles Seashore（津村俊充訳）…125

グループ：その誕生から死までのサイクル…Richard C. Weber（津村俊充訳）…130

レポート

人間関係研究センター社会人研修

「人間関係基礎研修の理論と実際」……津村　俊充…137

客員研究員から報告

「私の人間関係体験学習の中で」……高平百合子…150

事業報告　（1985，1986年度）

Ⅰ　研　究　会

1．「今日からみた人間関係科創設の意義」……澤田　慶輔…153

2．「スペインにおける生命倫理研究の現状」……まどか　庸代…155

Ⅱ　社会人研修

1．人間関係基礎研修講座……158

2．人間関係専門研修講座……159

3．人間関係特定研修講座……162

4．コンサルテーション……164

5．社会人研修参加者統計……166

6．1987年度人間関係研究センター事業予定……167

南山短期大学人間関係研究センター規定……169

人間関係 第5号 1987

目　次

巻頭言……星野　欣生

特別研究会：「学習者を中心にすえた教育のあり方めぐって」……河津　雄介…2

特集：グループの中に生きる

1．個を生かす集団・集団を生かす個……星野　欣生…45

2．キリスト教における個と集団……市瀬　英昭…50

3．現代科学における個と集団の問題をめぐって……まどか　庸代…55
－原子論からバイオホロニックスの発想まで－

4．人間関係科の教育における個と集団……山口　真人…69
－関係に定位した教育の実現をめざして－

5．「個」と「集団」……横山　彰…77
－合流教育実践からの考察－

6．チームつくりのトレーニングと組織開発……星野　欣生…91
山元由美子
猪熊　京子

7．企業内研修におけるグループトレーニング……松本　寛之…121
田辺　昂

8．南山短大における集団不適応……木村　晴子…130
－学生相談室開設に向けての報告－

ミニレクチャー

援助するということ……竹内　敏晴…139

態度価値と責任性存在……大森　正樹…144

対人感受性の開発……山口　真人…149
－人間関係トレーニングの原理と実際－

レポート

NTLにおける最近のラボラトリー・トレーニング……津村　俊充…157

事業報告（1987年度）

Ⅰ．研究会……171

Ⅱ．社会人研修

1．人間関係基礎研修講座……175

2．人間関係専門研修講座……178

3．人間関係特定研修講座……180

4．コンサルテーション……183

5．社会人研修参加者統計……185

6．1988年度人間関係研究センター事業予定……186

南山短期大学人間関係研究センター規定……190

編集者　津　村　俊　充
星　野　欣　生
山　口　真　人
まどか　庸　代

人間関係　第6号
1989年 3 月20日　発行

編集発行者　〒466　名古屋市昭和区隼人町19番地
電 話（052）832—6 2 1 1・6 2 1 4
南山短期大学人間関係研究センター
代表者　星　野　欣　生

印　刷　所　㈱ 尾 頭 橋 印 刷 所
名古屋市中川区南脇町 3 丁目 20 番地
電　話（052）351 — 6 2 3 1 番(代表)